

東播磨の甲虫相 (2) *

高橋 寿郎

2. 東播磨地域に生息する注目すべき甲虫類

Cicindea (s. str.) transbaicalica japonensis Chaudoir, 1863

コニワハンミョウ (ハンミョウ科)

この地域では松村松年博士の明石の記録があるのみである。県下では猪名川、能勢川、武庫川原に産するとなっているが現在どのような状況なのかよくわからない。加古川、美褒川々原などを調べる必要がありそうである。

Scarites sulcatus Olivier, 1795 オオヒョウタンゴミムシ (オサムシ科)

かつてこの地域では明石市、高砂市、加古川市加古川付近、浜ノ宮と産地が知られており場所によってはわりといたことが知られているがこの種の好む砂地帯は海岸線の荒廃と改修、各河川敷の荒廃によってその姿を消しており、浜ノ宮あたりでは飛行場建設とかで産地上にコンクリートが敷かれたとか(戦時中)同様のことは県下でのかつての産地として知られていた甲子園浜とか武庫川沿いの地域も同様今ではその生息が絶望的な状況かと考えられる。現在県下ではっきりとしている産地は南淡町吹上浜であるがこの地も観光浜として荒廃著しく次第に姿を消しているようである。

Hydrovatus yagii Kitayama, Mori et Matsui, 1993 ヤギマルケシゲンゴロウ (ゲンゴロウ科)

最近兵庫県加西市青野ヶ原と南西諸島(奄美大島、石垣島、西表島)から新種として記載された種である。青野ヶ原では丘陵地の大きな池の浅瀬で植物の豊富な水域から初夏には個体数多く産するとのことである。

Laccophilus kobensis Sharp, 1873 コウベツブゲンゴロウ (ゲンゴロウ科)

種名が示す通り神戸産で記載されたゲンゴロウである。当地域では明石市、高砂市(Takizawa, 1932)の記録があるがそれ以後全く知られていない。県下でもほとんど産地が知られていない。

東播磨地域は池沼が多くあったことから水棲甲虫は多種類の生息があったと思われるが最近のように開発によって池沼がなくなると同時にこれら甲虫の姿も極端に少なくなりつつあることは大変残念である。

Gnathoncus nannetensis (Marseul, 1862) オオマルマメエンマムシ (エンマムシ科)

鶏糞から発見されるということであり現在の所沢田和宏氏が記録された三木市下石野が県下で唯一の産地である (1987).

Colenis terrena Hisamatsu, 1985 オチバヒメタマキノコムシ

Agathidium deprispioides (Nakane, 1954) セモンマルタマキノコムシ (タマキノコムシ科)

タマキノコムシ科の甲虫は成虫幼虫ともにキノコ類やそれに寄生した朽ち木などに見られるもの落葉下で見られるものと体長も比較的小さいものが多いので調べる人も少なく、同定もそれ程楽でないのが県下での調査も全く出来ていないのが現状である。上記2種も今のところ西区伊川谷 (lex., 7-VI-1988), 明石市明石城公園 (lex., 26-VI-1986) で採集したのを知るだけである。

Geotrupes (Phelotrupes) auratus Motschulsky, 1857 オオセンチコガネ (センチコガネ科)

本種の県下での分布は必ずしも多くなく産出状況も多産地とゆうのは現在ほとんど知られない。農業に牛馬の使用がなくなり機械化すると共に牛馬を見なくなり同時に糞虫の姿もわれわれの前から姿を消してゆきつつある。

かつて多可郡下あたり佃煮にする位いたという (岡本, 猪股等, 1960) 夢のような状況であったのがなつかしい。

Ochodaeus maculatus Waterhouse, 1875 アカマダラセンチコガネ (コガネムシ科)

兵庫県下からはこの地域の笠形山 (lex., 26-IX-1965, lex., 27-IX-1970, K. Okamoto leg.), 三国岳 (lex., 31-V-1959, R. Inomata leg.) の3例しか知られていない。現在での最貴重種である。

Copris ochus (Motschulsky, 1860) ダイコクコガネ (コガネムシ科)

この種も牛馬の姿が消えたと共に減少しはじめ残っていた牧場も閉鎖になって現在この地域での産出状況は全くわからない。あれ程多く見られたのにとすると淋しい。近畿地方では兵庫県下にのみ多産していた糞虫だけに残念である。

Polyphylla (Gynexophylla) laticollis Lewis, 1887 ヒゲコガネ (コガネムシ科)

美褒川々原で夢のように多く発生していた。河川敷の改修工事がおこなわれていることと他にも原因はあるかと思うが最近極端に減少している。

Protaetia lenzi (Harold, 1876) レンツアオハナムグリ (コガネムシ科)

明石城公園内で多産していたが公園化による改修工事がおこなわれ始めるや極端に数を減少している。

Trichius japonicus Janson, 1885 トラハナムグリ (コガネムシ科)

この種も県下では非常に個体数の少ない種である。加西市畑で採集出来ている (1♂, 17-VI-1974)。なかなか出会うことの少ない種である。

Charitovalgus fumosus (Lewis, 1887) オオヒラタハナムグリ (コガネムシ科)

本種も県下では個体数の少ない種である。三木市窟屋で採集されている (3exs., 12-VI-1981)。県の中央部から北部にかけて見られる種のようなものである。

Nephus yotsumon (H. Kamiya, 1961) ヨツモンヒメテントウ (テントウムシ科)

テントウムシ類はこの地域がわりと平野的の關係で種類数が多いように思われる。この種は県下では目下社町三草で採集した 1ex. (26-VI-1987) が知られているだけである。名前のごとく黒色に上翅各翅前縁に並んだ2つの小赤紋を有する小型種 (体長 1.9 mm)。

Leiochrodes masidae Nakane, 1963 キイロテントウゴミムシダマシ (ゴミムシダマシ科)

クロテントウゴミムシダマシに似て色が黄赤褐色である。体長 3.0 mm の小型種である。県下からはこの地域内美褒郡吉川町で採集出来たもの以外知られていない (1ex., 11-V II-1985)。

Cissites cephalotes (Olivier, 1795) ヒラズゲンセイ (ツチハンミョウ科)

よく知られているように幼虫がクマバチの巣に寄生する本種は従来四国 (高知県) の産が有名であった。最近本州でも記録が見られるようになり紀伊半島が知られており兵庫県では淡路島で見つかり神戸市の北区藍那でも採集され1992年には明石城公園でも採集された。さらに1993年には三木市内でも見つかっている (ここが現在分布の北限地)。

Atimia okayamensis Hayashi, 1972 ケブカマルクビカミキリ (カミキリムシ科)

西日本の平地~低山帯のネズに集まる種であるがこの地域では三木市内と神戸北区藍那が知られている。県下では今の所この地点以外宝塚市が産地として知られているだけである。もっといえると思われるが出現期が若干早いようである。

Hesperophanes campestris (Faldermann, 1835) マルクビケマダラカミキリ (カミキリムシ科)

夜間灯火に集る種とのことであるが県下では三木市福井 (三木, 1978) の記録があるのみである。

Donacia japana Chūjō et Goecke, 1956 キンイロネクイハムシ (ハムシ科)

美しいハムシである。県下でも宝塚市とか養父郡の産地もあるがこの地域でも数ヶ所の産地が知られている。いがいと分布は広いのかもしれない。

Donacia katurai Kimoto, 1981 カツラネクイハムシ (ハムシ科)

芦屋市奥山町が原産地である。県下での産地はわりと知られている。この地域でも加西市青野ヶ原とか社町畑あたりに産する。注意すれば本種も広く多くいる種なのかもしれない。

Lema coronata Baly, 1873 トゲアシクビボソハムシ (ハムシ科)

ツユクサを食草とする。ルリクビボソハムシに似るが中肢脛節中央部に明瞭なる突起をもつ。分布は広いようだが山地での産が知られていなく、さらに個体数はそれ程多くないのかも、この地域では東条町森で見つかっただけである。

Lilioceris merdigera (Linnaeus, 1758) ユリクビナガハムシ (ハムシ科)

ユリを食害する。三木市内で多く見つかっているが神戸市、三田市、川西市、篠山での産も報じられている。最近分布が広がっているように思われる。

Oulema dilutipes (Fairmaire, 1885) アワクビボソハムシ (ハムシ科)

この種も県下では4ヶ所しか産地が知られていない。かなり珍しいというか出会いの少ない種である。食草はキビ、アワといわれている。この地域では神戸市西区前開で見つかっている。他にも氷上郡遠阪村、柏原、美方郡浜坂町が知られている。

Chrysochus chinensis Baly, 1859 オオサルハムシ (ハムシ科)

古く神戸からは記録がある (Heyden, 1879)。やや中型の背藍色をした光沢ある美しいハムシである。県下の記録は氷上郡とか加東郡東条町であるのみでいがいとおめにかかれぬハムシである。食草はイヨカズラ、サツマイモが知られている (1993年6月神戸市北区内2ヶ所で採集した)

Gallerucida lewisi (Jacoby, 1885) ムツキボシハムシ (ハムシ科)

上翅に3対の黄白紋を有するわりとはっきりしたハムシであるが県下では産地として3ヶ所位しか知られていない。大体県中央部から北にいるように思われるのだが——。この地域では多可郡鳥羽で採集した (lex., 20-IV-1970)。

Oides bowringi (Baly, 1863) キベリハムシ (ハムシ科)

この地域内でも本種は見る事が出来る。特に多可郡黒田庄とか神崎郡笠形山などで多く見られているようである。東播磨平野部ではあまり見る事が出来ない。

Choragus cissoides Sharp, 1891 ゴマノミヒゲナガゾウムシ (ヒゲナガゾウムシ科)

ノミヒゲナガゾウムシの仲間はいずれも小形種ばかりで分類が難しい。未記載種もあるようで同定に若干問題がある。この種も現在加東郡社町三草で採集出来たものが県下では唯一の記録地である。

Xylinada striatifrons (Jordan, 1895) ナガフトヒゲナガゾウムシ (ヒゲナガゾウムシ科)

やや中型 (体長15mm) のヒゲナガゾウムシで全国的にも稀な種とされている。県下では養父郡の記録以外はこの地域の西脇市と美婁郡吉川町で得られている。

Phaphitrops japonicus Shibata, 1978 タテスジヒメヒゲナガゾウムシ (ヒゲナガゾウムシ科)

中脛節の外面に光沢ある稜がある。県下では神戸市伊川谷前開の産しか知られていない (lex., 2-V III-1988)。

Nanophyes pubescens Roelofs, 1874 ハナコブチビゾウムシ (ホソクチゾウムシ科)

小さい種 (体長 1.5mm)。觸角柄節、腿節、脛節は赤色をしている。本州、四国、九州に分布するが少ない種とのこと。県下にはこの地域の三木市口吉川町、口吉川町笹原で得られているだけである。

Homorosoma aterrianus (Hustache, 1916) クロトゲサルゾウムシ (ゾウムシ科)

体長 1.9mm. 黒色のゾウムシでありおたがいによく似た種がいる。この種はこの地域産（東条町森, lex., 18-V-1984）が県下で唯一の記録地である。

Ceutorhynchus diffusus Hustache, 1930 ミドリサルゾウムシ（ゾウムシ科）

前胸は黒, 上翅は金属緑色に輝く。体長 2.0mm. イヌガラシにいる。県下では小野市山田で採集出来ているだけである (lex., 16-V-1987)。

Baris menthae Kōno, 1937 ハッカヒメゾウムシ（ゾウムシ科）

ハッカの害虫として知られている。オオハッカヒメゾウムシに似るが小形（体長3mm）。県下では加東郡東条町の記録があるのみ (4exs., 11-V-1984)。

Curculio hilgendorfi (Harold, 1878) シイシギゾウムシ（ゾウムシ科）

シイの実に産卵, 灯火に集まるとあるも現在のところ県下ではこの地域に所属すると考えられる神戸市伊川谷前開 (lex., 21-IX-1988), 多井畑 (lex., 11-V II-1990) に記録があるのみである。

Sitona hispidulus (Fabricius, 1776) ケチビコフキゾウムシ（ゾウムシ科）

Sitona japonicus Roelofs, 1873 チビコフキゾウムシ（ゾウムシ科）

この仲間は互いによく似て鱗片の色と紋に個体変異がある。いずれの種もレンゲ, クローバー, ウマゴヤシ, ベッチなど豆科牧草の害虫であると。

共に県下ではこの地域内での記録が知られているだけである。即ち前者は美濃郡吉川町 (lex., 26-IX-1985), 後者は加東郡社町三草 (lex., 14-V II-1989)。

Sympiezomias lewisi (Roelofs, 1879) ルイスヒョウタンゾウムシ（ゾウムシ科）

河野広道博士と松村松年博士が高砂市高砂で採集された3exs. を記録されたのが (1930) 県下での記録として唯一のものでそれ以後得られていない。

Hypera punctatus (Fabricius, 1775) オオタコゾウムシ（ゾウムシ科）

最近神戸, 三田市内で見つかっているゾウムシである。この地域に入ると思われる西区伊川谷前開でも得ている (lex., 2-V III-1988, lex., 28-IX-1988) クローバ類の害虫のようである。

ヨーロッパとか北アメリカに分布している種で日本では横浜・神戸・三田で現在知られているだけのようである。(最近の情報では関東北部周辺にも分布しているようである)。

3. 東播磨地域産甲虫をタイプに記載された甲虫類

この報文で東播磨として取扱った地域内で得られた甲虫達をタイプとして記載されている種類がどれ位あるか一応文献で調べて見た。貧弱な筆者の所有文献からの調べであるから見落しているものが多くあるのではと心配している。御教示頂くことが出来れば幸いである。

この地域から記載されている甲虫は筆者の調べでは5科5種しかなかった。古くからこの地域の甲虫相を調べるといったような人がいなかった。また調べにやってくる人がほとんどいなかったことが原因かと考えられる。(勿論甲虫に関してのことであるが——)。もっと腰を落ちつけて調べたら大変面白いものが得られ学界未知の種が得られたことであろうと残念に思われる。次に学名, 和名, 原産地を記録しておく。

Hydrovatus yagii Kitayama, Mori et Matsui, 1993 ヤギマルケシゲンゴロウ (加西市青野ヶ原)
なお青野ヶ原には未記載種ムモンチビコツブゲンゴロウ *Neohydrocoptus* sp. を産出すとのこと〔森, 北山, 1993〕

Stenelmis nipponica Nomura, 1958 イブシミゾドロムシ (加古川市加古川)

- 松村松年博士が明石で採集された標本をタイプにして三輪勇四郎・中條道夫両博士は *Buprestis unicus* Miwa et Chūjō ベニオビクロタマムシなる新種記載をされた (Ent. World Vol. 3, No. 17: 272-273, pl. 105, f. 18, 1935). 黒沢良彦博士によるとこの種は北米産 *Buprestis lecontei* E. Saunders ベニオビクロタマムシのことであり針葉樹などの木材について日本にやってくることがあるとのこと。したがって記録種として取扱う。

Phymatodes quadrimaculatus Gressitt, 1935 ヨツボシヒラタカミキリ (播磨)

Phymatopoderus pavens Voss, 1926 ヒメコブオトシブミ (播磨)。

産地が播磨 (Harima) とのみである。西播磨かもしれない。

Demimaea mori Kono, 1939 クワササラゾウ (高砂市)

1994年3月に送られてきた四国昆虫学会々報 Vol. 20, No. 3・4・石原 保博士追悼号を拝見したところ森本 桂博士が兵庫県並びに三木市産のランを食害するヒメゾウムシの新種を記載されている。この地域からの新種として次に記しておく。

P. 236-241, Fig. 2

Orchidophilus ran Morimoto, 1994

Holotype. Male Hyogo Pref. XI. 11. 1979

K. Fujimoto leg. (obtained from bulb of an orchid).

Paratypes. 2males & 2females, Miki City, Hyogo Pref. V III, 1976, T. Adachi leg.

(on *Cymbidium* sp. imported from Taiwan three years ago)

4. 東播磨の甲虫相概観

東播磨の甲虫相は始めに記したように兵庫県産として現在その生息数がわかっている 3,139種にたいしてそのほぼ 1/3 の種数にあたる 1,046種の生息がわかっている。ただしこの数字は大変流動的であって次々と増減をくりかえしていくであろうと考えられるが傾向としてはほぼ大差はないものと考えられる。

この東播磨地域が山岳地域で無いことがカミキリムシ科とカナガクチキムシ科、アカハネムシ科のものが大変少ないという傾向が見られる。特にカミキリムシ科のハナカミキリ類は少ない。反面平野部というかこの地域が多く池沼を有する地域ということから水棲のものが多く特長はあると思われるが残念ながらこれ等の調査がほとんど出来ていない。地上性のゴミムシ類（特に河川敷とか海岸線ぞい）ゲンゴロウの仲間などは当然面白いものを分布していると考えられる（若干この地域の西に当る所でメクラゲンゴロウ、ムカシゲンゴロウのような特異なものが見つかっている）。

農耕が機械化されるのにしたがって牛馬の姿が減少し食糞性の甲虫の姿が豊かであったこの地域も次第に淋しい状況に変わりつつある。食草性の甲虫、コガネムシとかテントウムシ、ハムシ、ゾウムシ類はこの地域では結構多くまた面白いものが見られる。クワガタムシ類のようなものは種類数は少ないが個体数は必ずしも少なくはないようである。

県下産で現在この地域にのみ産することが記録されている甲虫は22種ありまたこの地が本州の北限と考えられるヒラズゲンセイのようなものが分布していたりする。

神戸特産であったキベリハムシもこの地域にはわりあいと広く分布しているようだし甲虫以外の昆虫として分布の西限にあたるヒメタイコウチを産し、ギフチョウ、ヒメヒカゲをわりと産する。トンボ目でも珍しいものを産する（例えばベッコウトンボなど）。

一般的にながめて甲虫相は平野的な種が主体とはいいながら結構面白いものが分布しているかなり変化のある様相を呈している。ただ開発が刻々と進み特に平野的、丘陵地的なことが無計画のゴルフ場建設さらには高速道路の建設に拍車をかけて自然、田園風的な形態を著しく変えつつあることは単に虫の姿が減少すると言ったことでなく人間が住めなくなる環境になりつつあることが残念である。

参考文献

兵庫県産甲虫類に関する文献は始めに記した拙著文献目録によっていただくとして此处では一切省いた。

その他にも非常に多くの参考文献はあるがあまりにも多くの数になるのでここでは図鑑類、甲虫の分

類書その他を主体に掲げるのにとどめた。

- 馬場金太郎・平嶋義宏 (1991) 昆虫採集学 (九州大学出版会・九州)
- 林 匡夫・森本 桂・木元新作 (1984) 原色日本甲虫図鑑 (IV) (保育社・大阪)
- 平嶋義宏・森本 桂・多田内 修 (1989) 昆虫分類学 (川島書店・東京)
- 平嶋義宏・九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター (1989)
日本産昆虫総目録, I. 索引.
- 平嶋義宏・九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター (1990)
日本産昆虫総目録 追加・訂正
(九州大学農学部昆虫学教室)
- 北隆館 (1950) 日本昆虫図鑑・改訂版 (東京)
- 黒沢良彦・久松定成・佐々治寛之 (1985) 原色日本甲虫図鑑 (Ⅲ) (保育社・大阪)
- 三輪勇四郎 (1938) 日本甲虫分類学 (西ヶ原刊行会・東京)
- 森 正人・北山 昭 (1993) 図説 日本のゲンゴロウ (文一総合出版・東京)
- 森本 桂・林 長閑 (1986) 原色日本甲虫図鑑 (I) (保育社・大阪)
- 中根猛彦 (1972) 甲虫類. 動物系統分類学, 7(下C): 218-258
(中山書店・東京)
- 中根猛彦・大林一夫・野村 鎮・黒沢良彦 (1963)
原色昆虫大図鑑第 2 巻 (甲虫篇) (北隆館・東京)
- 上野俊一・黒沢良彦・佐藤正孝 (1985) 原色日本甲虫図鑑 (Ⅱ) (保育社・大阪)

(付記) 1994年3月に田中眞吾編著“播磨の地理・自然編”がのじぎく文庫1993年配本として送られて来た。自然編であるから動物・昆虫についての記述もあるだろうと楽しみにひろげて見たが武田義明氏の“播磨の植生”なる参考になる解説はあったが動物・昆虫などについては何一つ記されていないなく大変物足りなく感じた。